

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス デフキッズ				公表日		2026年2月27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個々が過ごす目的に応じて部屋が分けられていていい。 3つの部屋をうまく使い分けている。	活動スペースとしては狭いと感じる。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			急な職員欠勤以外は適切である。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		事業所が2階にあるため、階段を使用する必要がある。(エレベーターなし) 転落防止の為にスタッフが必ず付き添うようにしている。	ろう児・難聴児にとってすべての空間が見とおせる室内構成になっていない。また事業所が2階にあるためバリアフリーに適した場所とは言えない。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		常時掃除がされていて気持ちがいい。	おもちゃでごちゃごちゃしている。整理整頓ができるようにおもちゃの数を厳選してほしい。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		幼稚部が制作やカレンダーシール貼りをするときなどは他の子どもたちと別部屋で活動できる。	感情コントロールのための部屋にできるように室内整備が必要。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝昼礼やミーティングで振り返り、および対策を実施している。	数回出勤の非常勤に関してはLINEワークスの議事録による情報共有を図っているが、十分とは言いきれないところもある。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の意向を業務改善に反映出来ている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の昼礼で職員間で共有し、その都度改善策が検討されている。	個別で対応する場合はあるが、十分とは言いきれないところもある。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は行ってはいない。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		絵本の読み聞かせの研修に参加。子どもたちの読み聞かせの意識が変わった。				
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		計画後取り組んだ結果がどうなったか、また達成度や職員のコメンを書きプリントがあるため、情報共有があっている。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		子どもの様子に合わせて支援方法を変えたり、そのまま様子を見たりしながら行われている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画は毎回共有され、それに沿って支援が行われている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○						
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○						

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		都度、行事や土曜日開所、長期休暇において様々なプログラムを組んでおり、子どもたちもとても充実している様子が見られる。職員間でミーティングがなされ、工夫している。	子どもの好みや性格によっては活動プログラムの内容が繰り返しになってしまうときもあるが、できるだけ幅広い活動ができるようにしている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		朝昼礼で実施している。日誌などの活用、翌日の昼礼でミーティングされている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			一部職員による日々の記録の更新が毎日行われていない状況が散見される。記録の方法について改善してほしい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		内容やこれからの支援について話し合いがあるため分かりやすい。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		考える時間、「間違っても大丈夫」とこどもたちが思える声掛けや接し方が出来ている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターと連携はとっていないが、ろう児の専門家から指導やアドバイスを受けている。ろう児専門の専門家や団体との連携によりスーパーバイズを受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		1日開所においての野外活動や、平日は近くの公園やお店などを利用する際、地域の小学校の子供達と接する機会がある。また地域の小学生との交流会を企画し実施した。交流はないものの、公園で遊ぶ時に一緒に遊ぶ時がある。夏休みに地域の小学校と交流する企画があった。もっと地域の子どもたちとの交流がはかれる機会が作れればと思う。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		オンライン講演会に参加した。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ペアレントトレーニングの申請はしていないが、家族支援という広い意味での企画(親子で絵本読み聞かせ)を実施した。また、鹿児島聾学校で開催している保護者対象手話講座に当事業所のスタッフが指導している。	児童生徒の年齢に応じた家族支援のための情報提供を積極的に行いたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○		宿題の進め方について保護者から要求があり、迅速に対応を行っていた。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○		SNSなどの活用で広くお知らせができています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		個々に応じた対応ができています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		外部向け行事は行っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○		契約時には確認されているが、定期的に変更点（服薬の追加など）の確認が必要と感じる。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○			